

どとど・ど素人の論文作成術

論文作成編

著者のプロフィール

高卒の著者が通信教育で MBA を取得する際に、自己流で身に着けた独自の論文作成術です。国語は小学校から大嫌いで常にエントツだった著者が、真剣に文書作成から考えて取り組んだものです。

MBA の通信教育を受けた当時の私は 30 代後半でした。職業はサラリーマンでコンピュータ関係の仕事をしています。妻子もおり、通信教育で MBA を取得するにはいろいろとしがらみが多い環境です。この通信教育を受講するには、上司の理解と家内の協力が必要不可欠でした。また、お金も有りませんでしたので、受講費用は銀行から融通しました。このような状況で通信教育を始めた次第です。そのあたりのお話は別の機会にしたいと思います。

私が取得した MBA の通信教育について少しふれておきます。MBA と言えば海外留学をして取得する資格で、ハードルがかなり高いと思っていましたが、インターネットで MBA の取得に関する情報を探しているうちに、通信教育でしかも日本語で取得できる学校を見つけました。(バークレー大学日本校 <http://www.berkleyj.edu/>)

※あの有名なカリフォルニア大学バークレー校とは違います <http://www.berkeley.edu/>

本編は、この通信教育で取組んだ卒論の作成方法を紹介しています。論文作成の書籍は多くありますが、悪い論文を題材にした本は無いように思います。

この「どどど・ど素人の論文作成術」を反面教師として活用していただければうれしいです。

～ 目 次 ～

1. この論文作成術について.....	3
2. テーマの選定.....	3
3. 卒論作成の前に.....	4
3-1. 社会人の通信教育の受講環境について.....	4
3-2. 読書について.....	4
4. 卒論作成のステップ.....	6
4-1. 中国をテーマにしたが・・・.....	6
4-2. 情報の収集.....	6
4-3. 大雑把な概要とキーワードを書き出す.....	9
4-4. キーワードの関連付けを行う.....	9
4-5. 関連している事について仮説を建てる.....	9
4-6. 仮説を裏づけるデータの調査.....	10
4-7. 上記の内容を繰り返して論文を作成.....	10
4-8. 目次レベルで全体のストーリーを再検討.....	10
5. 私の論文構成.....	12
6. おわりに.....	13

1. この論文作成術について

この論文作成術は、事前に論を立てて論文のストーリーを作成する方法ではありません。与えられた論文のテーマから、具体的に何を論ずるかわからない状態から考えます。少しでも連想できる事柄をキーワードにし、そこからいろいろな書籍等を読んで仮説をたてながら作成する方法です。

この「どどど・ど素人の論文作成術」は論文作成編・論文編・資料分析編の3つの構成から成り立っています。

- ・ **論文作成編** はこの小冊子です。論文の作成方法を説明しています。
- ・ **論文編** は中国経済をテーマにした私が卒論で作成した論文をベースにしています。各所に良い点や参考情報をコメントしています。
- ・ **資料分析編** は論文編に記載しなかったデータも含めた全ての資料について、その資料の入手方法や、どのように分析をしたかを解説しています。論文として取り上げるまでには、どのくらいの量の資料を集めて分析をしたかがわかります。

2. テーマの選定

その年の卒論のテーマは「アジア経済」でした。

この通信教育のカリキュラムを順調に進んだ人でしたら一年間の卒論作成期間がありますが、私の場合（社会人の方はみな同じと思いますが）仕事の都合で、半年以上手がつけられない状況となってしまいました。結局、2ヶ月間しか作成期間はありませんでした。

テーマの選定には、入手できる情報の多さが重要なポイントとなります。通常の大学と違い殆どの通信教育では、利用できる施設は一般に開放されている施設のみはないでしょうか。各課程で提出するレポートの調査には大変苦労しました。

私としては、テーマの候補はシンガポールの経済政策を取り上げたかったのですが、中国と比較した場合に入手できる情報の多さに違いがあり、中国が最良と判断しました。

また、今回の通信教育を始めた時から、たまたま、日経の新聞に報じられている中国に関する記事を、スクラップしていた事も中国を選択した要因の一つです。

3. 卒論作成の前に

ここで卒論を作成する内容に入る前に私の学習環境について触れておきたいと思います。

3-1. 社会人の通信教育の受講環境について

卒論は、2年間の通信教育の最後の関門です。

この2ヵ月間に読んだ書籍は約20冊。それ以外にも、図書館で借りた書籍もあり30冊以上の書籍を読みました。インターネットでも多くのサイトを閲覧し情報を収集しました。図書館は近くの図書館以外には、ジェトロのアジア経済研究所の図書館を利用しました。(詳しくは資料分析編に記載しています)

土日は全て卒論の作成時間に割り当てました。平日は仕事が終了次第近くのサテンで夜の10時まで学習しました。最後の1ヶ月は週に一度は休暇をとり、夜の12時過ぎまで学習しました。

前述していますが、平日の定時帰りや休暇の取得等は上司の理解と仕事の調整能力が必要で、土日の勉強は家内の理解が必要でした。私の場合自宅ではなかなか学習できる状況にならなかったのも、学習した場所のほとんど図書館やサテンで行いました。

また、この通信教育は電子メールで課題を提出しますので、ノートパソコンは必須でした。

3-2. 読書について

情報を集めるには本を読む事が必須です。

MBAの通信教育を受けて、切実に感じたのが本を読む事の大切さです。今までは、私にとって、本と言えばマンガかパソコンの本しか読んでいませんでした。読書は知識取得の手段として、いかに重要であるかが身に沁みて解りました。さらに、通信教育では、時間的な制約と調べる内容の多さから効率よく速く読む方法も必要な技術でした。

本を効率よく読むには

- ・斜め読み
- ・目次からその本の重要な点を抑えて、必要以外のところは読まない
- ・1ページをイメージとして捕らえて次々と読む方法 等等

まあ一般的ですね。上記以外にもいろいろありますが、結局、私の場合初めから順番にゆっくり読まないで自分の頭に整理して入らなかったのです。そして、この、のろのろ読書が続け、いろいろな本を読むにつれて、読んだ情報からなんとなく、関係している事柄のイメージが捕らえられるようになってきました。

- ・闇雲に読む→キーワードが浮かんでくる→キーワードに関する書籍を読む
- 皆さんは、もっと効率の良い方法をぜひ身に付けてください。

家内は私と比べてかなり本を読む速度が速いのです。本を速く読むコツについて聞いたのですが、家内は本を読む時には 1 ページ毎のイメージが頭の中に入るそうです。私は音読している時と同じ速度とやり方で黙読していたのです。どのようにして身に付けたのかと聞いたのですが、速読に関する方法を読んで身に付けたのでは有無いとの事でした。家内は小学校のころから、読書が好きだったので自然と身に付けたようです。

4. 卒論作成のステップ

4-1. 中国をテーマにしたが・・・

さてさて、中国というテーマは決まりましたが、そもそもどのような論文を作成すべきか全く見当が付きませんでした。作成しながら纏めていく方法しかありません。

今までの課題では数千字程度のレポートは何とかクリアしましたが、卒論は数万字の論文を作成する為、その作業事自体が私にとっては未知の領域です。

私が知っている中国に関する事柄は、共産党の国、天安門事件、経済成長が著しい、SARSの対応で政治的に過少に報じている、著作権について不正な取り扱いが横行している、、、、くらいの事しか思い当たりません。それぞれの事柄についてどの様に関係しているかも分かっていませんでした。

共産党の国と言うイメージは、ソ連の例を含めて、近年政治不安がおきやすい国という認識がありました。中国で起きている事件の対処方法を見ると、例えば、天安門事件の政府の対応は、武力行使による強制的な解決を行った国の印象が強く残っていました。

しかし、それとは相対して高い伸び率の経済発展を続け、各国からの資本を受け入れており、つかみ所のない国と思っていました。

この程度の知識しかありませんでした。

4-2. 情報の収集

① 今すぐ行うこと

この小冊子を読まれている方が大学一年生でしたら、いまから卒論のテーマを考えるのは無理がありますが、現在興味のあるテーマについて日々情報を集めて置くことは重要です。私がお勧めしたい方法はスクラップブックの作成です。

② 中国関係の書籍を読む

書籍の選び方

私なりに知っている中国についてのキーワードをもとに本を選びます。目次・発行された年月、本文の数ページを見て探します。探したい内容と合致していても、嫌いな文体の書籍は選びませんでした。なぜか嫌いな文体は頭にはいりませんでした。

キーワードで探したい書籍が見つからない時は、だいたい自分が何を調査すべきかを整理できていません。そのときは、いろいろな本を場当たりに読み、その内容を見てさらに疑問に思ったりしますし、そもそも何を探していたのかわからなく

なる事もあります。ますます混乱します。頭の中が混乱した場合は、気持ちを切り換えて別の本、例えば速読の本や全く関係の無い本をみて、頭の中を一度リセットします。この様な時は、大体、自分が焦っている時が多いですね。

当たり前ですが、本を見れば全て疑問点が解決するわけでは無いですし、何を調べる為にどのような本を探すのかを自分で分かっていると、本を探す事事態ができません。

本を探す→内容に疑問に思う（知識不足の面もあります）→さらに調査する。

また、そのときは必要な本だと思っても後で考えたら関係なかったりする事がありますが、その関係の無い本でも、新たな理解が生まれる事もあります。寄り道も必要です。

③ インターネットからの情報を入手

～～書籍選び～～

事前に書籍を調べる時は、図書館のサイトで探したい本のキーワードを入力し探していました。

キーワードを入力して **google** で検索

例えば 「中国 犯罪 統計」で検索します。

私は、神奈川県にある横浜市立図書館のサイトを活用していました。このサイトは、本の目次等も含めて検索できます。本のタイトルだけでの検索では上記のようなキーワードでは不十分だからです。また、検索結果では複数の本が一覧で表示され、その本の予約状況が分かるようになっています。本を選ぶときに予約状況も参考にしていました。

～～統計情報の調査～～

中国をテーマとした場合の統計情報は参考になるサイトは少なかったです。

下記のサイトが役に立ちました。

中国情報局 <http://www.searchchina.ne.jp/>

それ以外では、日本なら、総務省の統計局(<http://www.stat.go.jp/>)や、統計情報をキーワードにして検索をしてみてください。

④ 新聞からの情報を入手

キーワードの記事だけ読むのではなく、地道に過去の新聞記事を読む事も有効です。ただし、地道に読むにしても、膨大の記事の中から一つ一つ読む事は時間的な制約もあり不可能に近いです。ポイントを押さえて地道に読む方法を取っていました。私が行った方法は、入手したい情報のキーワードからその時期の新聞を探し出して、その日に発行された新聞は一通り読んでみました。

～スクラップブック～

昔からある方法でお勧めです。新聞や雑誌にこだわらず、インターネットの情報も含めてあらゆる情報ソースからの情報を集めます。そして、必要なキーワードが記載されている情報を切り抜いておきます。

私が実施した方法は一社のみ新聞でしたが、出来れば複数の新聞社を見ることをお勧めします。今回の場合中国に関するキーワードをすべて切り抜きます。一週間に一度そのスクラップブックを整理します。出来れば毎日実施する方がいいと思いますが、私の場合日々はできず一週間若しくは一ヶ月毎に整理しました。

スクラップした情報を見ると中国に関する情報でも、いろいろなカテゴリに分類できる事に気づきます。私の場合日付でファイルするのではなく、カテゴリ別に分類しました。また、複数のカテゴリに対して一つの現象が原因であることが分かり、各カテゴリの関係についても整理出来ます。

スクラップブックを作成することで、常にその論文に関する内容について関心を抱くことになり、今まで気づかなかった所で論文に関する意外な情報が入手できたりします。

⑤ 図書館の利用

私が利用した図書館

- ・ 横浜市立図書館(蔵書検索: <http://www.lib.city.yokohama.jp/>)

一番多く利用した図書館です。インターネットからは書籍が検索でき、目次等も検索キーワードとして使用できます。この図書館の4階がパソコン持込可能なフロアとなっています。

- ・ 東京都立図書館(<http://www.library.metro.tokyo.jp/12/>)

交通の便がちょっと悪いのですが、ここも使用しやすい図書館でした。無線LANの提供も早くから実施しているところです。私が利用していた時期では、グループでミーティングができる部屋がありましたので、グループでの検討もできる場所です。

- ・ アジア経済研究所の図書館

(<http://www.ide.go.jp/Japanese/Library/index.html>)

ここは一度しかいけませんでした。なにせ、土日がお休みだったので。設備は食堂もありかなり綺麗な図書館です。できれば土日にも開放していただきたい図書館で。中国関連の書籍もたくさん見ることができ調べるにはよい図書館です。一般に開放されている図書館の中でも専門的な内容をかなり貯蔵しているところです。

- ・ 国立国会図書館(<http://www.ndl.go.jp/>)

日本で一番大きい図書館であり、本来であれば最初に紹介すべき図書館ですが、ほとんど利用しませんでした。ここは閉庫式(本が棚に並んでいない、読みたい本を指定して係りの人に出してもらう)の図書館であり、一般には貸し出しをしていないためです。ただし、過去の新聞記事については、各新聞社の縮刷版が開放されていたので参考になりました。

4-3. 大雑把な概要とキーワードを書き出す

中国の場合：報道されている出来事も含み、それまでに読んだ書籍から、次のキーワードをイメージします。このキーワードからさらに「5-1. 情報の収集」の方法で書籍を探したり、インターネットで検索したりして調べます。

- ・ 経済発展→いつから前年比の高い伸び率で発展していたのか、政治的にどのような事があったのか→どこの地域が経済発展が著しいのか
- ・ 天安門事件→何がおきたのか、原因は、背景は、政府の対応は、他の国の反応は貿易摩擦は起きたのか、首謀者たちはどうなったのか
- ・ その他（キーワードの羅列ですが）
農民、自然災害（黄砂）、病気（AIDS、SARS）、犯罪、中国に関係している国際的な事件 アジア通貨危機、日本のバブル崩壊の影響、ソ連の崩壊の影響、ロシアの事件、アメリカからの農作物の多量輸入、華僑 等々

4-4. キーワードの関連付けを行う

羅列したそれぞれのキーワードの関係を整理します。調べた結果から追加されているキーワードもあると思います。それぞれのキーワードをカテゴリに分けて分類する事も有効です。

【例】

例1：沿岸部の発展→農地の減少→作物の自給率の低下→輸入拡大→国際社会への影響大

例2：沿岸部の労働力の不足→農民の就業ニーズの増加→海外資本の流入→中国国内企業の倒産→失業者の増加→労働者（農民）の余剰→農民の黒社会への流入→犯罪の増加

4-5. 関連している事について仮説を建てる

「風が吹けば桶屋が儲かる」的な発想で、いろいろ想像します。この想像力は調査の段階で週集した情報の量によって違ってきます。

【例】

例1：沿岸部の発展には工場を建設する土地が必要 いつからどんな事が起きているのか
工場が建設できる土地＝優良な農地である

よって、工場を建設すると、優良な農地は減少する
→農地として適さない土地が農地となる→農業の生産性の悪化

例2：アジア通貨危機→タイ（バーツの下落）→他の国にも影響→数年続いた
中国への影響は少なかった→なぜ？

貿易の問題は？ 外貨を溜め込んでいたから
→なぜ外貨がたくさんあったのか
固定相場制だから？ どうして固定相場だと影響を
受けにくいのか

例3：中国の犯罪の増加→どのような犯罪が増加したのか

著作権の問題、模造品、購入する消費者の意識
模造品を製造して設けている人は？
中国政府の対応は？
なぜ犯罪は減らないのか
中国に進出しようとしている外国企業への影響→中国政府の対応

4-6. 仮説を裏づけるデータの調査

想定した仮説を立証します。政府発表を含めて各種の方面から報告されている統計データから、その仮説を証明します。

→仮説の証明に際して苦労した点は、証明に必要な統計データが発表されていない事や、統計データがあった場合でも、その内容を裏づけるデータとならなかった事が多々ありました。この場合は、別の仮説を建てたりその事例を変えたりしました。

※データの分析方法については資料分析編で解説しています。論文に使用しなかったものも含めていますので、分析する時の参考にしてください。

4-7. 上記の内容を繰り返して論文を作成

4-1から4-6までを繰り返します。

最初に決めたテーマと全く違っている内容の場合は除きますが、それ以外は多少離れていても残しておきます。

4-8. 目次レベルで全体のストーリーを再検討

大体の仮説が揃ったら、論文の全体構成について目次レベルで内容のストーリーを考えます。それぞれの仮説が裏づけられたら、各仮説間の関連やストーリーを考えて、全体としてのストーリーを作ります。最後の仮説が論文の結論となる事を意識して作成します。仮説に見出しをつけて一覧にすると分かりやすいです。

また、この段階で最終的な論文の結論や構成について吟味します。結局この論文で何が

言いたいのか、何が重要なポイントなのかを自問します。ここで、論文のタイトルも考えます。

そして、全体の流れから逸脱している内容や重複している内容を見つけて整理します。

私の場合、論文の文字数の制限値を超える事が一番の問題でしたので、回りくどい表現や重複している内容が散見しており、しかもテーマと関係の無い内容もありました。

教授から論文の再提出を指示される事を逆に利用して、教授の意見を聞く方法も一つのやり方だと思います。この場合は提出期限までに余裕があればいいのですが、私のように時間がないときは使えません。

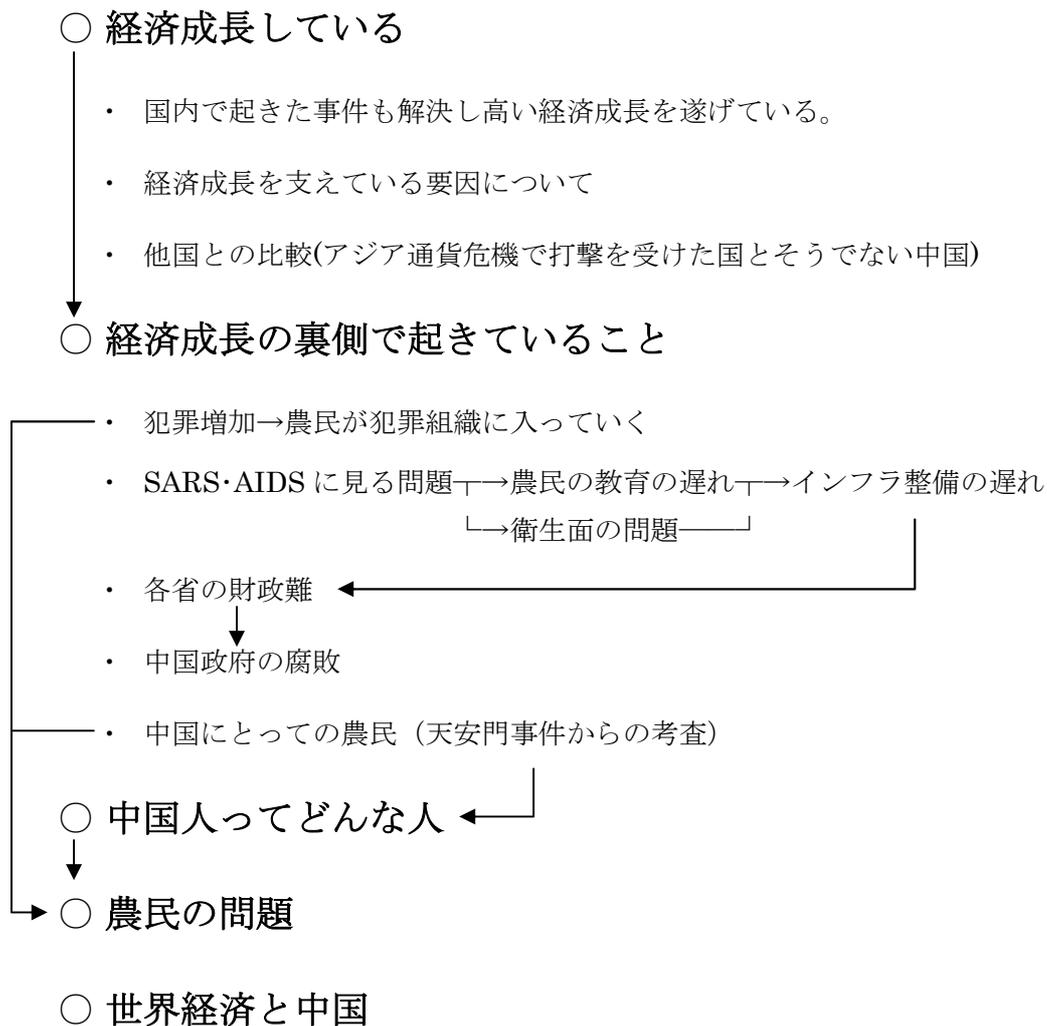
ここまでできたら、1つの仮説検証にこだわり時間をかけるよりも、全体の構成についても注意する必要があります。後ろから検証していきます。

- ・ 結論はなにを言いたいのか
- ・ その結論の検証は充分か
- ・ 各章とのつながりがあるか
- ・ 事実を裏付けるための説明は充分か
- ・ 重複しているところはないか

5. 私の論文構成

具体的に私の論文についてその構成を見てみましょう。

それぞれの論から別の関係している論の流れを矢印で表記しています。矢印は上から下
が分かりやすいですが、私の論文はそうになっていません。各章を整理し並べなおす
時間は有りませんでした。



6. おわりに

「どどど・ど素人の論文作成術（論文作成編）」は、いかがでしたでしょうか。興味がありましたら、他の二編についても、ご一読いただければ幸いです。

論文編は、中国の経済について論じていますが、中国以外の国にも、この論文の見方を参考にさせていただき、同じ切り口での分析も可能です。

資料分析編は、私が学習した際に利用したツールなどの紹介や、論文編では論じなかったいろいろと集めた情報や、データの分析方法について記載しています。中国とか、経済とかにこだわらずに、集めたデータの分析方法や、全く尺度の違う、例えば学校の各クラスの特徴を調べるときに、単にテストの点での比較ではなく、男女の比率や、体育系・文科系のどちらの傾向が強いかな等のデータの比較をして、各クラスの特徴をとらえる等の方法を記載しています。

どどど・ど素人の論文作成術

論文作成編

初版 2007年3月

著者 高橋 陽介

takahashi@kangaeru.taka.ddo.jp

この小冊子は下記URLからダウンロードできます。

<http://homepage2.nifty.com/kangaeru/dl.html>